

## ＜メディアウオッチ＞格差歴然！ 読売の秘密法案記事数は朝日の4分の1

上出 義樹

### 第二次大戦中の翼賛報道とも通じる危うい体質

日本の民主主義に重大な影響が懸念される憲法無視の特定秘密保護法案の国会審議が大詰めを迎えている。前回11月27日の当欄では、人権や平和主義を党是に掲げながら自民党と一緒に稀代の悪法の成立を目指す公明党の「大罪」と欺瞞性、それを報じない全国紙の「鶴タブー」を取り上げた。それとも関連するが今回は、与党のやりたい放題の暴走を許してきたマスメディア自体の足並みの乱れを厳しく指摘したい。とくに、「権力監視」の使命を事実上棚上げし安倍晋三政権に迎合する読売や産経などは、戦意を煽った第二次大戦中の新聞の翼賛報道とも通じる危うい体質が感じられる。

### 権力にすり寄る体質は各紙似たりよったり

雑誌・ネットメディアやフリーランス記者を排除する排他的な記者クラブ制度などマスコミの既得権益を死守し、国民に見えないところで権力者にすり寄る点では実は、朝日など他紙も似たりよったりで同じ穴の何とか、なのだが、今回の秘密保護法案の報道に関しては朝日、毎日、東京などの批判派と読売、産経の容認派とでは、報道の内容ばかりでなく記事量にも歴然とした違いがある。

### ただし11月の秘密保護法案関連記事は朝日560件に対し読売は118件

そこで、朝日、読売、毎日の10-11月2カ月間の同法案関連の掲載記事件数を、「特定秘密保護法案」キーワードに、各紙の全国の地域面を含めすべての記事や投稿を対象にしてデータベースで検索した。10-11月2カ月では、朝日697件、毎日427件に対し、読売は177件。11月だけに限ると朝日、560件、毎日329件、読売118件だった。結局、読売は朝日の4分の1しか同法案関連の記事を掲載していないことになる。

もちろん報道の内容でも12月に入り、たとえば読売は、デモを敵視する石破茂自民党幹事長の重大な問題発言を真正面から批判していない。

### NHKも安倍政権批判を避ける「自己規制」が一段と目につく

読売や産経ばかりでなく、気になるのが最近のNHKのニュース報道である。「アベノミクス」の礼賛など安倍政権を後押しする姿勢が目立つことは当欄でも以前に取り上げていたが、特定秘密法案の問題を含め、このところ、午後9時のニュースなどでキャスターのコメントが明らかに少なくなっている。安倍首相の息がかかったNHK経営委員が次々に選任されるなかで、余計なことと言わない、言えないという「自己規制」（自己検閲）の空気がNHKの現場で強まっている気がしてならない。そもそも、独立機関ではなく政府みずからが公共放送の経営委員を選ぶシステム自体に「先進国」や「民主主義」の名に値しない日本の後進性が表れているが、それにしても安倍首相の顔色をうかがい、その意向を忖度（そ

んたく) するようでは、放送の中立性や政治からの独立をうたった放送法そのものにも抵触する行為である。

### **政府のポチになつてはジャーナリズム「失格」**

安倍政権は数の力を背景に特定秘密保護法案に続いて、一気に集団的自衛権の行使や改憲へ突き進もうとしている。読売や産経は「改憲」を社論に掲げている。それにしても、国民と民主主義に背を向けるいまのような報道をしていては、ジャーナリズム「失格」と言われても仕方ないだろう。それは、国民の利益優先ではなく、政府のポチになりかねないNHKにも当てはまることである。

(かみで・よしき) 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程(新聞学専攻) 在学中。